



特定非営利活動法人 こどもソーシャルワークセンター
 TEL:077-575-4378 E-mail:office@cswc2016.jp
 〒520-0032 滋賀県大津市観音寺9-8



CHILD SOCIALWORK CENTER



こどもソーシャルワークセンター
 団体紹介ブック

2018-2022



特定非営利活動法人
 こどもソーシャルワークセンター



VISION

私たちの目指すもの

こどもソーシャルワークセンターは、様々な事情で子どもたちが家や学校などでしんどさを抱えても、住み慣れた地域の中にホッと出来る場所があり、人とのつながりが出来るまちにしていこうと目指しています。

MISSION

私たちの使命

ソーシャルワークの「つなぐ」「つくる」機能を活用して、目の前の子どもや若者一人ひとりの声に耳を傾け、丁寧に向き合いながら、全国のモデルとなる活動をつくり出します。そして出来上がった活動を社会に広げていくソーシャルアクションを行います。

MESSAGE

理事長からのメッセージ

こどもソーシャルワークセンターは、2012年、地域につくられた独立型社会福祉士事務所です(2018年にNPO法人化しました)。

子どもたちは自分の生まれてくる家庭や地域(学校)を選ぶことは出来ません。生まれてきた家庭に貧困や虐待という課題が発生することもあります。ヤングケアラーと呼ばれるケアを必要とする家族がいることもあります。また学校に行くことがつらくなることもあります。勉強や集団生活についていくことが苦手だったり、いじめや先生たちの関わりで学校生活に苦しむこともあります。

こどもソーシャルワークセンターでは、ソーシャルワーカーとしての専門性である「つなぐ」「つくる」を生かして、地域の力を活用しながら「居場所活動」と呼ばれる自由で、楽しく過ごすことを目的とした活動を軸に、子ども若者たちとともに様々な活動を10年近くつくり続けています。

今後も目の前にいる子ども若者一人ひとりと関わることを大事にしながら、子ども若者たちの声を社会に届けたり、このこどもソーシャルワークセンターでつくっているモデル事業を社会に広げる活動に取り組んでいきたいと思ひます。

そしてこどもソーシャルワークセンターを通して生きづらさを抱える子ども若者を応援する社会が広がっていくために、みなさんよろしくお願ひいたします。



幸重忠孝
(NPO法人こどもソーシャルワークセンター理事長)

CONTENTS

00_こどもソーシャルワークセンターとは	01
01_しんどさを抱える子ども若者って?	03
02_こどもソーシャルワークセンターのあゆみ	05
03_こどもソーシャルワークセンターの事業紹介① こどもの居場所事業	07
04_こどもソーシャルワークセンターの事業紹介② 若者たちの活動(ユースホーム事業)	09
05_こどもソーシャルワークセンターの事業紹介③ ヤングケアラー支援事業	11
06_ソーシャルアクション	13
07_センター応援団の紹介	15
08_利用者・応援団の声	16
09_会計報告	17
団体報告	17
寄付・会員・ボランティア募集	18



01

INTRODUCTION

しんどさを抱える子ども若者って？

子ども若者たちのしんどさは、子ども若者たちの日々の生活の中に潜んでいます。特に子どもたちの生活は、家庭と学校の往復で日々の生活が成り立っているため「家庭」「学校」でしんどさを抱えると、生活のほとんどがしんどくなってしまう危険性があります。



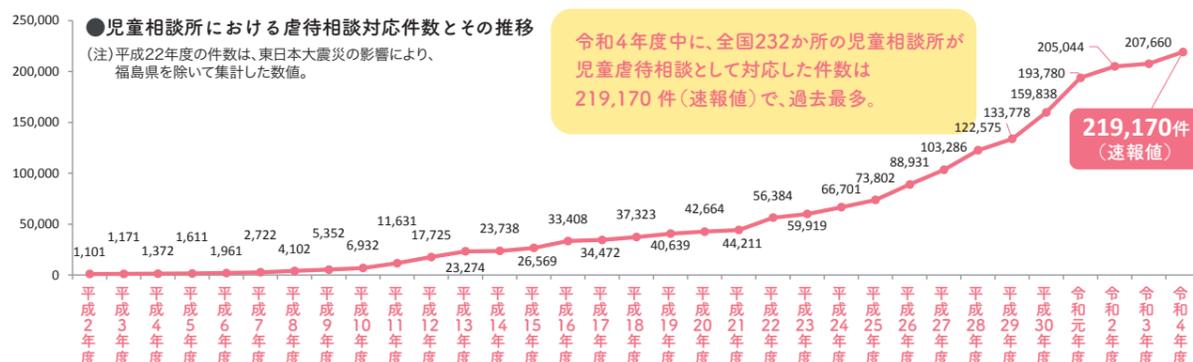
例えば「家庭」で、このようなしんどさで苦しむことがあります。

子どもの貧困

国が発表している子どもの相対的貧困率は11.5%（2021）で、特にひとり親家庭の場合の相対的貧困率は44.5%と、ほぼひとり親家庭の半数が貧困課題を背負っています。学校のクラスの中に3、4人は存在するはずの「子どもの貧困」は外から見えにくい課題のひとつです。衣食住はギリギリ保っていますが、子ども時代に多くの家庭の子どもたちが当たり前に関与しているものを持っていなかったり、子ども時代に経験する様々な機会（習い事・家族旅行など）を奪われていることが問題とされ、その格差はコロナ禍以降、加速度的に広がっています。

子ども虐待

子ども虐待の児童相談所等での相談対応件数は、年間219,170件（2023）。そして驚くべきことに虐待と貧困は相関関係にはならず、中流家庭や社会的地位のある仕事をしている親がいる高所得の家庭でも多く起こっており、これもまた外から見えにくい課題です。多くの市民は、虐待があれば子どもは虐待家庭から保護されて、施設や里親のもとで暮らすと思っていますが、実は虐待ケースの98%が在宅支援で、子どもたちは虐待のある家庭で育つしかないことは社会にあまり知られていません。



ヤングケアラー

福祉などの公助が機能しにくい社会の中で、介護や障がいなどケアが必要な家族がいると、福祉サービスや大人だけでは家庭内でのケアが足りずに、子どもたちが様々なケア（介護・育児、家事、精神的ケア、通訳、家計支援など）を行っていることが国の調査（2020）でわかり、新たな社会課題として注目を受けています。現在自治体などで様々な調査が行なわれていますが、ヤングケアラーの数は子どもたちの約5%いるとされ、少子化の中で増えていくことが予想されます。



また「学校」でつらい気持ちで過ごしている子どもがいます。

不登校

コロナ禍以降、急激に不登校数（小中学校で30日以上欠席）が増えて299,048人（2023）となっています。不登校の原因は複雑で本人の課題とされるだけでなく、時として学校が悪い、家庭が悪いなどの対立もよく起こります。不登校になると社会との関係が遮断されることも多く近年民間のフリースクールなども増えてきていますが、ここでも家庭の経済的な格差によって利用料を払えない・送迎が出来ないなどの理由で、不登校になっても居場所に出会えることもそうでない子どもに分断されています。



いじめ



いじめの認知件数は681,948件（2023）で、法制度が整ったことで少しずつ学校現場の意識がわかりつつあります。しかし数は把握出来ても、いじめに苦しんでいる子どもが安全安心な学校生活を送るためのハードルは同世代の集団生活が強られる学校においては構造上難しさを抱えています。子どもソーシャルワークセンターのある津市はいじめ対策においては先進的と外から言われていますが、センターに通う子どもたちから「いじめ」を受けている、受けていた話を聞くことばかりで「対策」と「実態」には大きな開きを感じます。

発達課題

学校では同世代の集団生活がメインのため、発達課題があると学校生活でうまくやれないことが増えてきます。また家庭でも親の子育てがうまくいかないため親子トラブルが増え、家でもしんどさを抱えやすいです。また軽度の知的障がいをもっている子どもや若者は、見た目では出来ないことを気づいてもらえないことが多かったり、逆に「障がい」というカテゴリーに入れられることで、実は学校などで出来ることや友だちづくりのチャンスを奪われていることもあります。

子ども若者を取り巻く代表的な課題を紹介しましたが、**そもそも子ども若者自身が課題に気づいていない、まわりに知られたいくないことが多いので、相談などの支援はほとんど意味をなしません。**子ども若者たちが何らかの支援を受けようと思うと、窓口によってどれかの課題に振り分けられます。複数の課題が重なっていると今度は「うちではない」とたらい回しになることもあります。そこで**子どもソーシャルワークセンターでは「しんどさを抱える子ども若者」という捉え方で特に課題のラベルづけをせず、子ども若者たちが課題を意識せず、生活している地域で安全安心に過ごせる居場所や活動を提供しています。**家庭や学校の環境そのものを変えることは難しいですが、地域の力を借りて、生活の中に「安全安心で楽しい時間」があることで、子ども若者が本来の力を発揮し、時にまわりを元気にしてくれることや相互作用が起こっていくことが子どもソーシャルワークセンターの実践から証明されています。

では実際の活動について、この後のページで紹介していきます。

こどもソーシャルワークセンターのあゆみ

2012年度に京都市山科区に独立型社会福祉士事務所「幸重社会福祉士事務所」としてスタートをして、2016年度に大津市に移転。2018年にNPO法人こどもソーシャルワークセンターとして法人化しました。

活動年表

2018 1月 特定非営利活動法人
こどもソーシャルワークセンター設立総会 (3月9日法人設立)

2月 『まちの子どもソーシャルワーク』出版

4月 「ほっとる一む」が大津市子ども家庭相談室と共同実施開始

5月 若者たちの居場所「まちなかほっとる一む/まちなか合宿」開始 (2021年度まで)

5月 高校内居場所カフェ「大津清陵高校ほっとルーム」開始 **P.12**

2020 1月 内閣府主催「子供の貧困対策に関する有識者会議」に招聘

3月 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言・学校休校時の緊急受け入れ事業 (2020.5まで)

4月 夜の子どもたちを支えるアウトリーチ事業：こどもの未来応援基金 (2021.3まで)

4月 生きづらさを抱える若者たちによるアウトリーチ事業：休眠預金活用助成金 (2022.2まで)

2021 4月 立命館守山中学・高校へのソーシャルワーカー派遣開始 **P.16**

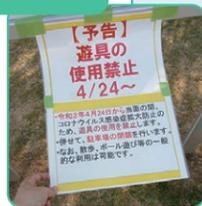
2022 4月 「トワイライトステイ」「ほっとる一む」が大津市の子ども居場所事業として統合

3月 生きづらさを抱える若者たちを支える「ユースホーム事業」： **P.09**
休眠預金活用助成金 (2023.2まで)

7月 「ヤングケアラー支援事業」開始：
滋賀県ヤングケアラー支援体制強化事業 **P.11**



82日開催、のべ337人のこどもたちを朝から晩まで受け入れをしました。



ヤングケアラーと共にモデル事業づくり



NPO法人化以前の活動

2012 4月 独立型社会福祉士事務所「幸重社会福祉士事務所」設立 (京都市山科区四宮)

2014 3月 龍谷大学町家キャンパス「龍龍」(大津市)で、夜の居場所「トワイライトステイ」開始 **P.07**

5月 内閣府主催「子どもの貧困対策に関する検討会」に招聘

12月 社会貢献型の就労支援プログラム「ジョブキャッチ」開始 (2021年度まで)

2015 4月 滋賀の縁創造実践センター「淡海子ども食堂」「フリースペース」ワーカー派遣 (2017年度まで)

2016 4月 事務所移転 (滋賀県大津市観音寺) 通称を「こどもソーシャルワークセンター」に

8月 センターで日中の子ども居場所「ほっとる一む」開始 **P.08**

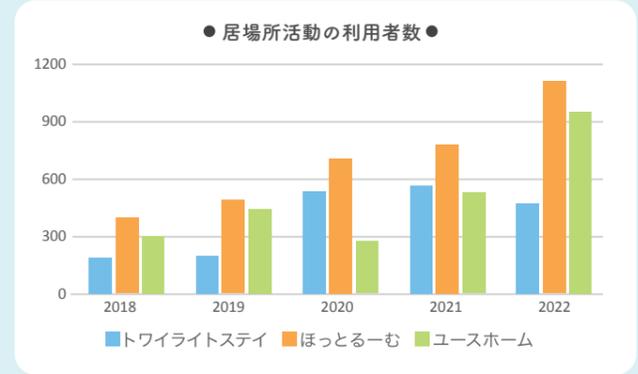
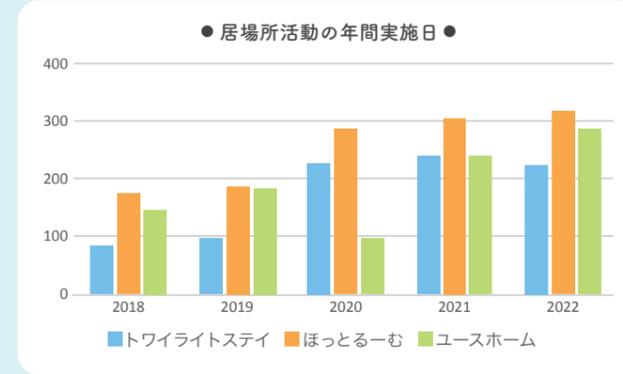
11月 センターで子ども食堂「eatalk」開始 **P.09**

大家さんの好意で建物をリフォーム



活動日・利用者のべ人数グラフ

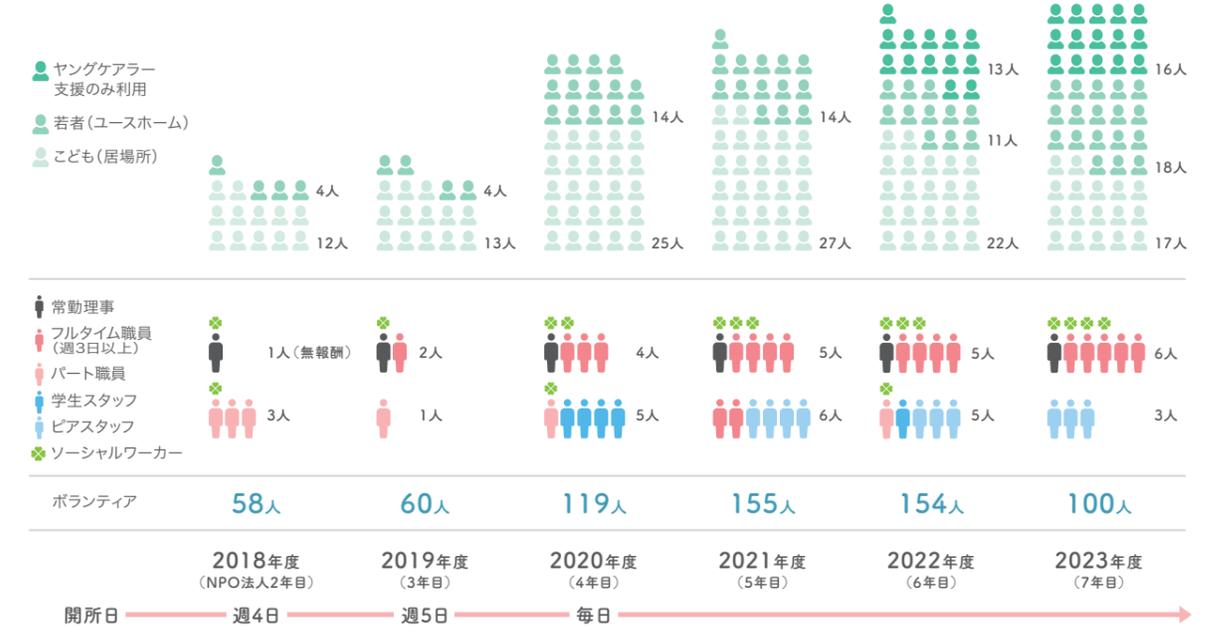
コロナ禍以降は、ほぼ毎日センターを開けてこども若者を受け入れています。また若者向けの活動日や利用者が年々増え続けています。若者向けの就労支援メニューが2020年度からはジョブキャッチと呼ばれる軽作業を行う中間就労プログラムと入れ替わって、ピアスタッフとして雇用されたことから、若者向けの活動日やのべ利用者数が一度急減しています。



利用登録者数と職員数の変化

こどもソーシャルワークセンターでは、センターを利用することも若者一人ひとりと丁寧に関わっていききたいという思いから、利用することも若者の数を調整しながら受け入れを行っています。コロナ禍までは職員数も少なかったことから20名までの受け入れでしたが、職員数の増加とともに受け入れの数を増やしています。また専門職であるソーシャルワーカーの比率が年々増えてきています。

● センターの支援を受けるこども若者と職員の増加 (利用登録者実数)



組織の基盤整備事業について

2020年度のコロナ禍以降、こども若者の受け入れと組織の急激な拡大によって、組織基盤整備の必要性が強まりました。そこで2022年から2023年末まで「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」の助成を受けて、外部コンサルティングの力を借りながら組織基盤整備をすすめました。「こどもソーシャルワークセンター(2018-2022)団体紹介ブック」もその組織基盤整備の一環として作成されました。

2018年度から2020年度までは、大津市生活困窮者自立支援事業子どもの生活学習支援事業と大津市協働提案制度テーマ型提案事業の補助金を活用し、それぞれ週に二日程度子どもたちを受け入れてきましたが、コロナ禍の一斉休校・緊急事態宣言時の自主受け入れをきっかけに毎日子どもたちを受け入れてきました。そして2021年度より「トワイライトステイ」「ほっとるーむ」が大津市子どもの居場所事業として統合化され、大津市の制度となりました。

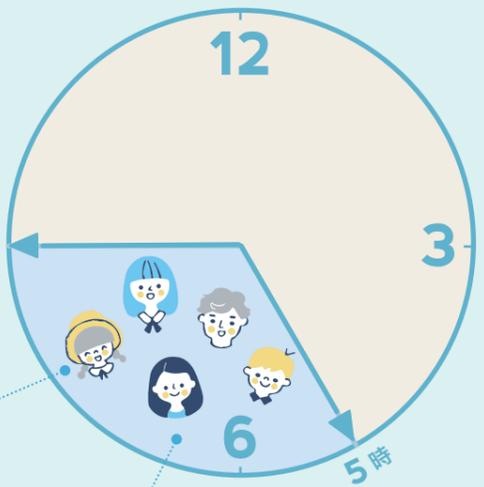
この事業には、福祉や学校などの行政から紹介された小学生から中学生(高校世代)で、しんどさを抱える(保護者の夜間就労、家族の中に病気や障がいや経済的な事情を抱える)家庭やいじめや友だちとの人間関係、先生との関わりなどや学校生活そのものが苦手で学校に行くことが難しい子どもたちが、週に一回程度一軒家である子どもソーシャルワークセンターでゆっくりすごしています。

一度に受け入れる子どもの数は三名までとして、ボランティアやスタッフなどの大人がそれ以上いる体制で子どもたちは時間を過ごします。安全安心が保障された中で子どもたちは本来の姿や力を出せるようになっていきます。



子どもたちの夕刻を支える夜の居場所

トワイライトステイ



帰りの時間

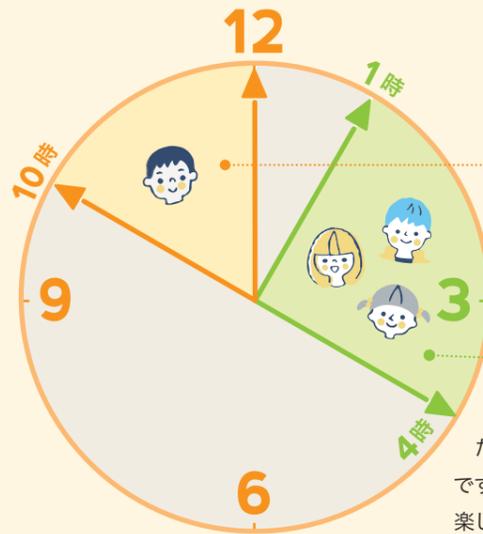
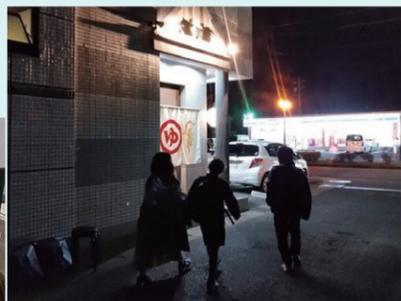
夜も遅い時間なので、必ずスタッフが自宅に送ります。帰り道や帰りの車でポツリと悩みごとを話す子どももいます。また玄関先で保護者の方とお話することも。

お風呂

お風呂は地域の銭湯(歩いて一分)にみんなでいきます。銭湯では地域の人との交流が生まれることもあります。ゆっくり湯船につかっているんな話ができる大事な時間。

夕食

夕食は基本的には地域のボランティアさんがつくってくれます。誕生日にはリクエストメニューで、好物が食卓にならびます。天気の良い日はテラスや庭に机を出して食べることも。



日中・休日を過ごす第三の居場所

「ほっ」とるーむ



個別活動

学校での苦しかった体験から人と関わるのが不安な子どもたちに対しては、利用者がそのこどもしかいない時間を設定して、センターで安全安心に過ごします。

小集団活動

個別活動で緊張がほぐれてきた子どもたちは、やがて小集団(とはいえ三名程度ですが)に移行していきます。誰かと一緒に楽しいことをする経験を重ねていきます。



休日活動

週末や長期休暇には、トワイライトステイを利用している子どもたちがほっとるーむを利用することもあります。



長期休暇の特別活動

夏休みなど長期休暇に、様々な家庭の事情で旅行や体験活動に参加することが難しい子どもたちに、大事な思い出となる遠足やお泊り活動を順番に提供しています。また経済的な事情や保護者の忙しさから、多くの子どもたちにとって冬休みのお楽しみになるクリスマスプレゼントやお年玉を家庭でもらえない子どもたちがセンターを利用してセンターにいることから、2020年度からセンター応援団の力を借りてクリスマスプレゼントやお年玉を渡すも行っています。



04 若者たちの活動(ユースホーム事業)

子どもソーシャルワークセンターの事業紹介②

子どもの居場所事業は活動プログラムが法人化前から固まっており法人化以降は制度化や社会に広げることを行ってきました。その一方で支援を必要とする若者がセンターに増えていく中で若者たちの活動プログラムも広がり、これから制度化や社会に広げる段階に進んでいきます。



ユースホームで行われる5つのプログラム

Program 01 若者の居場所活動 (子ども食堂事業含む)	Program 02 ボランティア活動	Program 03 就労支援	Program 04 社会発信	Program 05 緊急宿泊支援
--	-------------------------------	---------------------------	---------------------------	-----------------------------

Youth Home Program 01 若者の居場所活動

家でゆっくり出来ない、ヤングケアラーの高校生、高校を中退した若者、ひきこもり状態にある若者など様々な課題を抱えている同世代同士でおしゃべり、遊び、勉強など自由に過ごしています。時としてソーシャルワーカーのスタッフに相談することもあります。また居場所活動と並行して毎週土日に食事を提供する「子ども食堂 eataalk」も開催されます。



子ども食堂 eataalk事業

子ども食堂 eataalkは、eat (食べながら) talk (おしゃべりしよう!) という意味で、食卓を囲んで、学校やおうちの話、世間話などをしながらアットホームな雰囲気の中で時間を過ごします。2016年からコロナ禍までは週一回オープンで誰でも参加出来るスタイルでしたが、コロナ禍以降は定員制でセミクローズな形での週二回開催となり、現在は若者の居場所活動と並行して行われています。



子どもソーシャルワークセンターでは高校生世代からボランティアとして活動できることから、法人内の活動で自然とボランティア活動に参加する機会もありましたが、法人内だけでは活動のパターンに限られることから、地域の様々な活動で若者たちがボランティアとして自分のペースで活躍出来る場作りを行っています。

Youth Home Program 02 ボランティア活動

Youth Home Program 03 就労支援

法人化前は「ジョブキャッチ」と呼ばれる、子どもソーシャルワークセンター内で軽作業などのお手伝いをする事で作業賃金を渡す中間就労活動を行っていましたが、2020年度からはじまった「生きづらさを抱える若者たちによるアウトリーチ事業」を機に、若者たちのストレングスに注目して就労プログラムそのものをつくりだし、得意を活かした仕事に「雇用」することにしました。



Youth Home Program 04 社会発信

2018年度より公益財団法人あすのばが行ってきた子どもの貧困課題でつながる若者たちの合宿ミーティングを参考に、GW・夏休み・春休みなどの長期休暇に若者たちの合宿活動をはじめました。生きづらさを抱えた若者たちが遊びや食事をともにして交流を深めながら自分たちが背負う社会課題を学ぶ場をつくっていき、当事者の声を社会に届ける活動を行っています。コロナ禍である2020年度は、公益財団法人あすのばと共同で県内の子どもの貧困支援に関わる行政・民間団体が集まる「子どもの貧困対策キャラバン in 滋賀」にて県知事などに直接、若者たちの声を届けました。



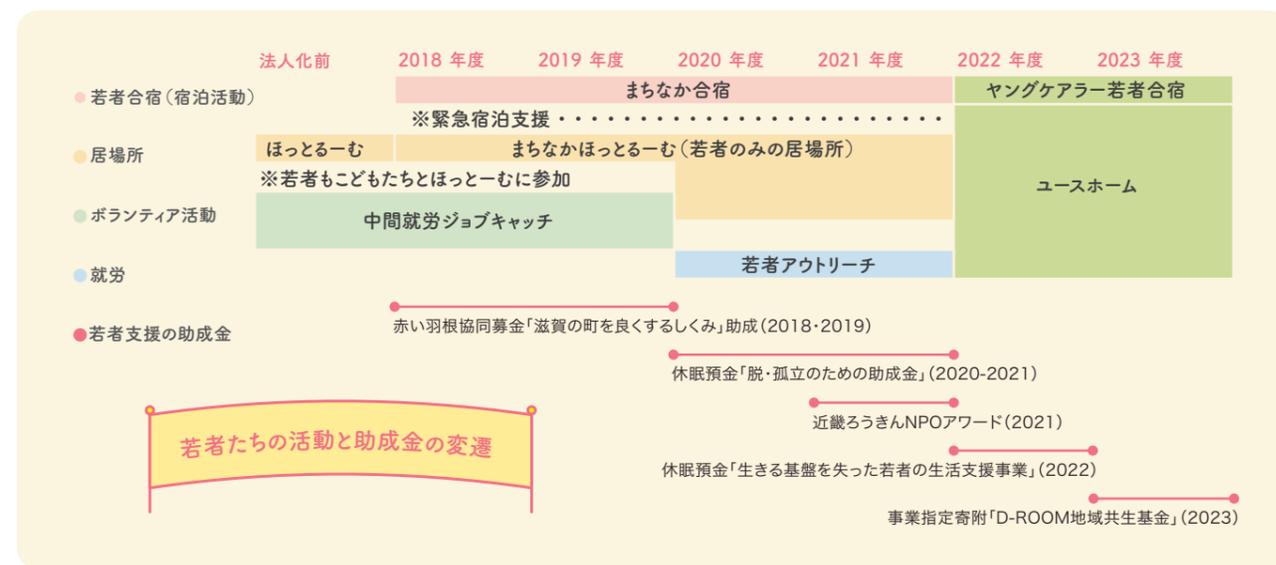
ユースホームは一軒家であることから、時には子どもや若者を緊急宿泊支援をすることがあります。子どもには児童相談所の一時保護所がありますが、そこにつながるためにはまずはユースホームで一泊させたりします。また若者を宿泊支援出来る場合は滋賀県内にほとんどありません。性的虐待を受けて逃げ出した若者、家出を繰り返し危ない生活をしている若者、親から経済的搾取をされていた若者など、時には自立援助ホームにつないだり、京都などにあるシェルターにつないだり、生活保護を受けて一人暮らしをするための同行支援を行ったりしています。

Youth Home Program 05 緊急宿泊支援

緊急宿泊支援した若者の声

「支援団体を知らなければ、のたれ死んでいた」

新型コロナの感染拡大でホテルが休業し、仕事を失った。当時は実家暮らしで、政府から支給される一人十萬円の特別定額給付金を当面の生活費にしようと考えたが、幼い頃から暴力をふるっていた父親や母親から「欲しければ出て行け」と言われ、家を飛び出した。人と話すのが苦手といい、知り合いも少なく途方に暮れていたところ、高校時代から通っていた、NPO法人子どもソーシャルワークセンターを思い出し、連絡。同センターで緊急小口資金などの支援制度や手続き方法を教わって、当面の生活資金や住居を確保し、今はセンターでアルバイトをしながら仕事を探している。(読売新聞2020年6月25日より)



若者たちの活動と助成金の変遷

05

子どもソーシャルワークセンターの事業紹介③

ヤングケアラー支援事業

滋賀県ヤングケアラー支援体制強化事業

子どもソーシャルワークセンターを利用する子ども若者の半数近くがヤングケアラーと呼ばれる家庭で育っています。2022年度より滋賀県の補助事業「ヤングケアラー支援体制強化事業」を受けることになり、全国のモデルとなる以下の取り組みを行っています。特に居場所や合宿などを通してヤングケアラーの若者（若者ケアラー）たちの声をもとにその力も借りながら「直接ヤングケアラーの小中学生とつながる活動」をつくりだしており、子どもソーシャルワークセンターらしい取り組みとして大きな成果をあげています。



子どもソーシャルワークセンターの
ヤングケアラー支援

01

ピアサポーターの育成（若者ケアラーたちの活動）

01

居場所活動
（オンライン含む）

02

若者合宿

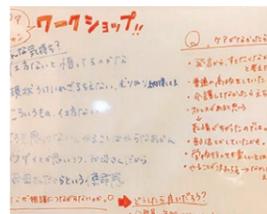
03

社会発信活動

02

若者合宿

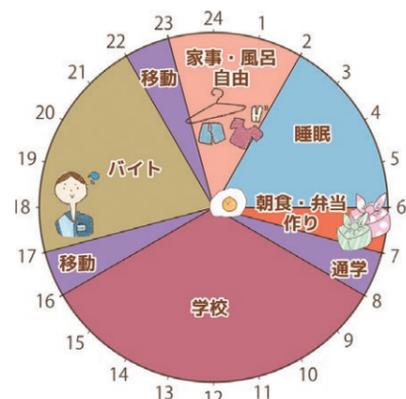
長期休みを利用して、若者ケアラー同士の交流や若者ケアラー自身がケアを必要とする家庭を離れて同世代の若者と過ごすことを重視しながら、ヤングケアラーについて学びを深める研修と、どのようなピア活動がヤングケアラーに必要なのかを考えるワークショップを行っています。



03

社会発信活動

ヤングケアラーや若者ケアラーの声を集めたパネルを作成して、滋賀県内各地でパネル展示を行っています。若者ケアラー自身がパネルの横に立って説明を行ったり、ヤングケアラーの意識調査のシールアンケートを行ったりしています。またプライバシーに配慮しながら取材やインタビュー調査に協力もしています。ヤングケアラーを理解するためのイラストづくりもはじまっています。



子どもソーシャルワークセンターの
ヤングケアラー支援

02

ヤングケアラーの子どもたちとつながる活動

01

体験活動

02

配食活動

03

高校内
居場所カフェ

01

体験活動

若者合宿での若者ケアラーの声をうけて、毎月休日にヤングケアラーの小中学生に家のことを忘れておもしろい体験活動の機会を提供しています。弟・妹である小学生のヤングケアラーが参加することで、いつも世話している中高生のヤングケアラーが自分の時間をもてて良かったと話するなど、レスパイトケアの意味もあります。活動が必要なヤングケアラーにはスクールソーシャルワーカーや子ども食堂などを通して声をかけてもらっています。



参加しているヤングケアラーだけではなく、サポーターである若者ケアラーも元気をもたらしている活動になっています。

02

配食活動

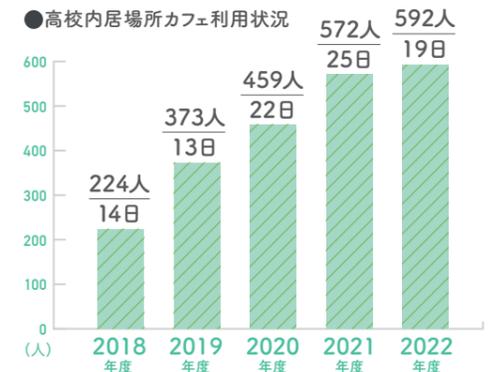
体験活動に参加した小学生のヤングケアラーが毎日ごはんづくりに追われていることを聞いて、何とかしたいと考えた若者ケアラーの発案ではじまりました。企業から提供されるお弁当やお惣菜をヤングケアラーの家庭に月に数回届けることで、ヤングケアラーはごはんづくり（買い物や片付け含む）から解放されて自分の時間をもつことができています。また配食活動を通して体験活動や居場所活動に直接参加の声をかけることが可能になりました。



03

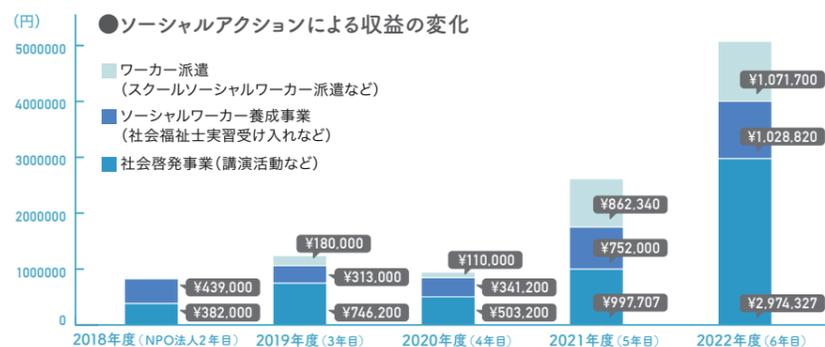
高校内居場所カフェ

もともとはヤングケアラー支援事業としてではなくアウトリーチ型の居場所活動として2018年度より定時制高校ではじまりました。国の調査でもヤングケアラーが定時制高校に多いことから、現在はヤングケアラー支援の中で定時制高校に訪問して高校生たちに居場所を利用してもらっています。食品や雑貨を配るフードパントリーコーナーをはじめヤングケアラーと直接つながる場の一つになっています。



06 SOCIAL ACTION ソーシャルアクション

毎年(2020年3月のイベントはコロナ禍のため中止)、法人の活動報告の機会を設けています。2020年度以降は助成金や補助金を使った事業の報告をメインに啓発イベントを開催しています。



こどもソーシャルワークセンター主催のイベント

● イベントの参加者数

- 2018 3月** 法人設立イベント「まのこどもソーシャルワークセンターこれまでとこれから」 96名
- 2019 3月** 法人化一周年イベント「こどもソーシャルワークの挑戦」 47名
- 2020 11月** 助成事業中間報告イベント「深夜の子どもたちの声に耳を傾ける」 179名 (オンライン)
※初のオンラインとのハイブリッド開催
- 2021 3月** 助成事業報告イベント「夜の子どもたちが教えてくれたこと」 76名 (オンライン)
※ボランティアと作った活動を紹介した朗読劇発表
- 9月** 助成事業中間報告イベント「深夜にネットをさまよう子どもたち」 101名
※啓発映画上映会も開催
- 2022 2月** 助成事業報告イベント「生きづらさを抱える若者たちによるアウトリーチ事業報告会」 92名
※法人作成のドキュメンタリー映像上映
- 2023 2月** 助成事業報告パネル展「ユースホーム事業報告」 68名
- 3月** 事業報告パネル展「ヤングケアラー支援事業報告」 215名
※県内各地で計9日間開催



メディア掲載実績 (法人化以降)



京都新聞連載「こどもたちの風景 湖国の居場所」理事長によるこどもソーシャルワークセンターの日常を物語風に紹介した連載が2022年6月から2023年5月まで計12回掲載。

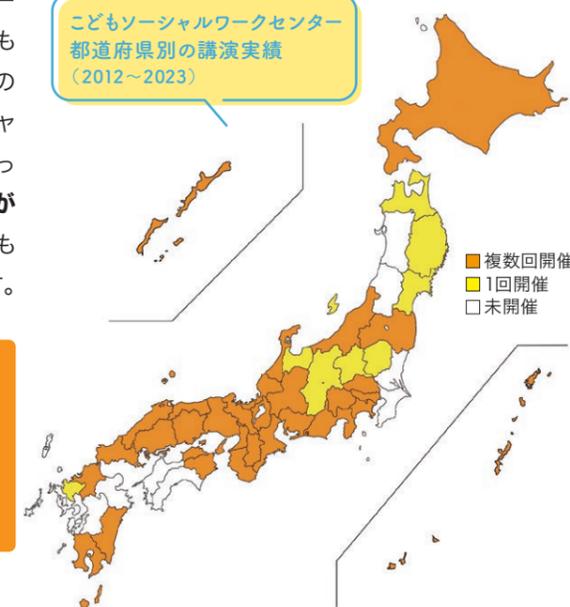


講演・研修

こどもソーシャルワークセンターは、社会を変えていくためのソーシャルアクションの一つとして、家庭や学校にしんどさを抱えるこどもや若者を取り巻く様々な社会課題や地域での居場所支援についての社会啓発を目的とした講演や研修を行っています。またこどもソーシャルワークセンターは毎日開所しているので視察などの受け入れも行っていきます。実にこの10年間で理事長や職員による講演・研修実績が全国各地で約500件近くあります。これらの謝礼は、すべてこどもソーシャルワークセンターの支援活動に使わせていただいております。



こどもソーシャルワークセンター 都道府県別の講演実績 (2012~2023)



ワーカー派遣

2021年度より立命館守山中学校・高校にスクールソーシャルワーカーとして毎週一回センターのワーカーを派遣しております。また滋賀県・京都の私学にコンサルテーションやケース会議のためにワーカーを派遣することもあります。

ソーシャルワーカー養成研修事業

こどもソーシャルワークセンターは社会福祉士実習を行うことのできる独立型社会福祉士事務所であることから、2014年度から現在まで64名の実習生を社会福祉士実習として受け入れてきました。また社会福祉士以外の実習や他のNPOなどの実習生も15名受け入れています。

【社会福祉士実習】川崎医療福祉大学・京都医健専門学校・光華女子大学・龍谷大学・立命館大学・花園大学・大阪歯科大学・日本福祉教育専門学校・京都国際社会福祉センター・華頂福祉専門学校・日本メディカル福祉専門学校・大原医療福祉製菓専門学校
【その他の実習】日本福祉大学・上智大学・日本大学・北海道大学・福岡県立大学・公益財団法人あすのば・NPO法人ドットジェイピー

実習生からこどもソーシャルワークセンター職員になりました!



鳴橋 2020年度実習生

こども若者たちの多様な場面に立ち会えた濃い実習でしたが、一番心を動かされたのは、民間ならではの“リアル”なこどもたちの姿を知れて、個別に合わせて活動のかたちをアレンジできる、センターの「現場感」でした。まず目の前の子と向き合うという姿勢に共感し、職員としての今につながっています。活動を「つくりだす」ことはやりがいがあり、イレギュラーが多いセンターの日々も楽しんでお仕事できているような気がします。



川崎 2021年度実習生

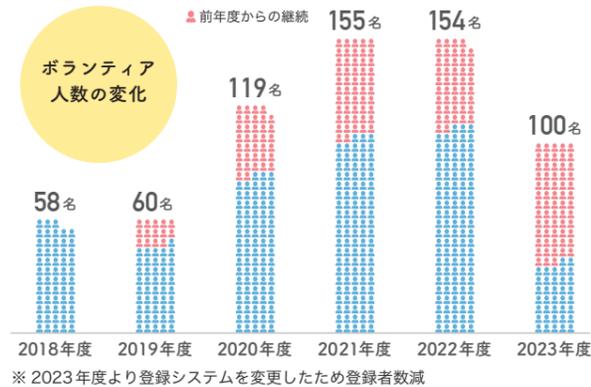
センターでの実習は、こども一人ひとりと丁寧に向き合うことのできる、他の福祉施設と違う規模に大きな魅力を感じました。こどもたちとスタッフが、お互いの顔が見える関係性にあるからこそ、感じられる思いや、できる支援があることを学びました。そこをキャッチできるソーシャルワーカーでありたいと思い、今はセンターのソーシャルワーカーとして日々の業務に励んでいます。

VOICE FROM SOCIAL WORKERS

07 SUPPORTERS
センター応援団の紹介

ボランティア

こどもソーシャルワークセンターでは、日々の居場所活動でこども若者と関わってくれるボランティアを中心に、おいしい食事を作ってくれる調理ボランティアや事務作業・環境整備・車の運転などのバックオフィスをささえるボランティアと高校生世代からシルバー世代まで幅広い年代のボランティアが集まってきます。毎回活動後の振り返りをはじめソーシャルワーカーのスタッフによるボランティアコーディネートが丁寧に行われており継続ボランティアが多いことも特徴の一つです。



まちのお店や団体の応援

こどもソーシャルワークセンターは、毎年個人や企業・団体からたくさんの寄付をいただいています。寄付は公的助成金や民間助成金などと違い、こども若者たちに必要な支援や活動を届けたい時に使うことが出来るため本当に助かっています。また地元のお店と共同してこども若者たちに様々な支援や活動を届けることも行っています。

企業・団体による寄付

- ・真如苑「子どもの貧困対策応援金」(2018)
- ・真如苑「子ども支援活動緊急応援金」(2020)
- ・ファッションブランド JAMMIN (2019)
- ・通販生活「こどもの貧困支援」(2020)
- ・大津ロータリークラブ「子どもの貧困支援」(2022)
- ・大和ハウスグループ「D-ROOM地域共生基金」(2023)
- ・大阪ガス「つながるプロジェクト」(2023)



JAMMINさんとのチャリティー企画で制作されたTシャツ。58万9730円の寄付と4913件のシェア・ツイートをしていただきました。



まちのお店との共同

こども若者たちが理美容のサービスを受けています



NPO法人そらいろプロジェクト京都「ハピハピカット(Happy Happy Cut)」



琵琶湖汽船「観光船ミシガンからのデリカ提供」



吉野家ホールディングス「毎月の牛丼弁当提供」

毎月110食もの弁当を提供してもらい配食しています。

引越しする子の送別会もしました。



テラスキッチンアンジュ「会食招待」



パティスリーベベ「ケーキ提供」



寿司 BarZIPANG※閉店のため終了「すしっクラブ招待 手巻き寿司提供」

08 REVIEWS
利用者・応援団の声

from センターで育った高校生



何度も家で困ったことがある時とかに助けてくれました。

小学生の時に不登校でずっと家にいる生活の中で、親ともトラブルが増えていて、ちょっとでも外に出る機会になるようにと紹介してもらってこのセンターに来ました。センターで過ごすうちにだんだん、困ってる時とか、楽しいお泊まりの計画とか、一緒に考えてくれるんやと思うようになりました。思春期の時はセンターでもかなり反抗期だったけど、センターでは論ざずにいてくれたから、今、はっきり意見が言えるようになったんだと思います。最近は、家計のやりくりをしたり、学校帰りに買い出しして家族のご飯をつくったりしています。家庭や学校での生活に不満があっても、親や先生たちの事情を理解できるようになったのは、センターの人から愛情をもらったからです。小学生から来てるから、センターで生活して育ったって感覚もってます。

from みちこさん(調理ボランティア・もりやま卑弥呼コンテスト優勝賞金を寄付)



家庭とも学校とも違う『居場所』として、こどもたちが分自身を安心して出せる場所になっています。

こどもソーシャルワークセンターでは、調理ボランティアをさせていただいてもうすぐ一年です。ここに集まってくるこどもたちの細かな事情は知りません。しかしどの子どもも優しく、好きなことや色んなことに興味があることは確かです。安心できる場所で美味しいごはんを口にして、心も身体も栄養に満たされるように心を込めて作らせていただいています。こどもたちの「美味しい」の言葉・表情・想いが伝わってきて、わたしの栄養になっています。こどもたち、ありがとう。支え合い、助け合って生きていくってこういうことだと教えてくれました。この夏、障がいの有無に関わらず、誰もが暮らしやすい町づくりの一環として、守山市の観光大使『もりやま卑弥呼』として選んでいただきました。守山市だけでなく、色んな地域、日本が住みやすい国になることを祈っています。そしてそのコンテストの優勝賞金はセンターのこどもたちに還元したいと考えて寄付させてもらいました。

from センターで育った高校生



自分の存在を認めてくれる人がいたことが大きかったなと思います。

中学生のときに、勉強をする場所として紹介してもらって、センターに来ました。でもセンターでは勉強だけでなく、ボランティアさんと一緒にゲームをしたり、一緒にご飯を食べたりもできました。家では親の代わりに妹たちの世話や料理・洗濯物などの家事をしたり、バイトもして生活費を家に入れていました。センターは家からの交通費も出してくれるので、お金がない時も来ることができました。心がしんどい時もあったけど、いろんな活動に参加するなかで、心が明るくなっている自分がわかるときがあります。センターで過ごす時間は一週間に一度の癒しだなと思います。

from 保護者



何も言わずともお兄さん二人が全力で共感してくれました。

こどもが学校に行かないようになり、プチ引きこもり状態でどこにもつながりのなかったときにセンターとつながることが出来ました。同じように日中にセンターでのんびりして来ていたお兄さん二人がこどもと一緒に過ごしてくれていて、学校のいやなことをぼろぼろと話すようになると、何も言わずともお兄さん二人が全力で共感してくれたのが、本人にとってはすごくよかったようでした。

from ボランティアのともき



活動そのものが楽しいので続けています。

今は平日週二回、こどもたちと関わっています。学校が終わった後はあまりやる事が無いので、その時間を誰かの役に立つ時間にあてたいと思って参加するようになりました。活動そのものが楽しいので続けています。休日などの特別活動にも参加していますが、その時しか会えないメンバーに会えることがとても嬉しいです。また、徐々に会うことでこどもたちの成長を感じたり、普段は見られないこどもたちの様子を見ることが出来るので、いつもの居場所活動とはまた違う喜びがあります。

from ボランティアのまゆっち

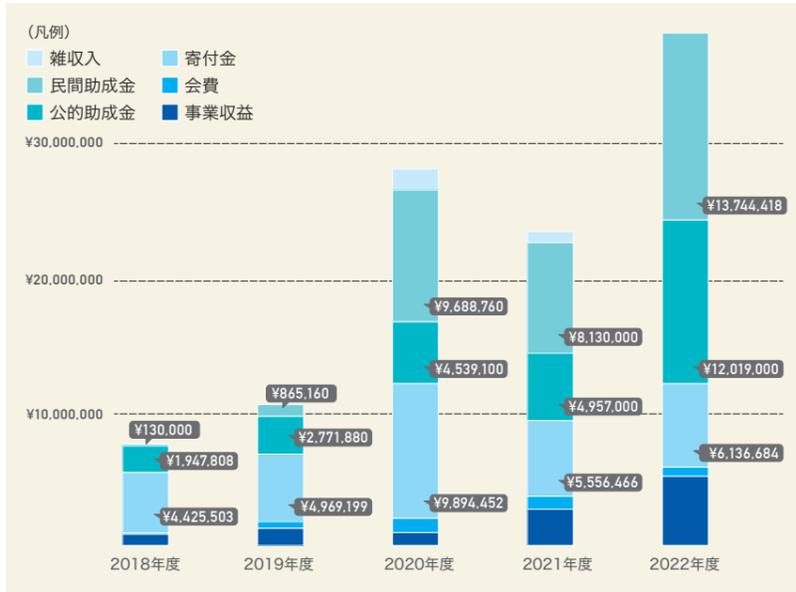


こどもたちが本当に自由に過ごしていて、想像と全く違って驚きました。

初参加の時はあまり話してくれなかった子が、今はとても話してくれるようになりました。長くボランティアすることで、関わる人の幅が広がり、人とかかわり方上手になっていることに成長を感じます。初めて来たときは、「センター」という名前なので、かなりお堅い団体・施設だと思って緊張しながら来所しました。でも来てみるとこどもたちが本当に自由に過ごしていて、その日は「ごっこ遊び」をずっとやっていました(笑)。想像と全く違って驚きました。

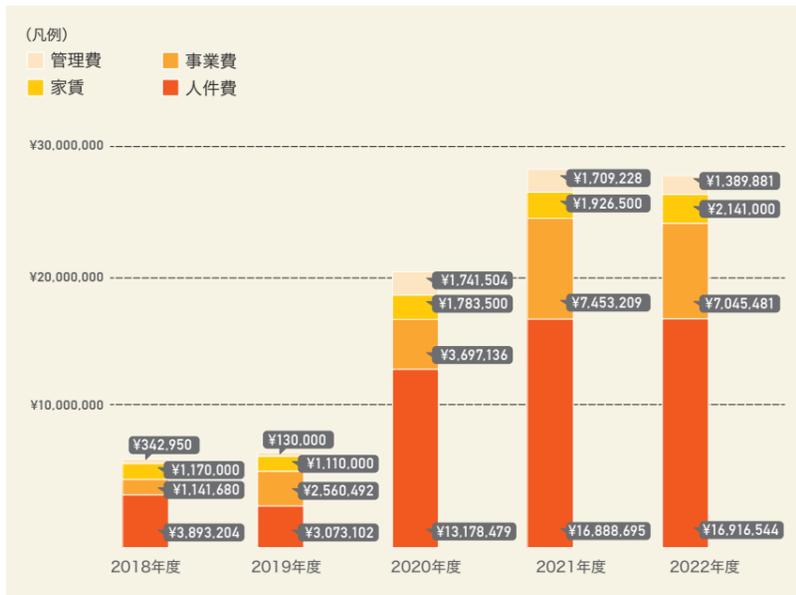
経常収益内訳 5期分

2020年度から、休眠預金を活用した民間助成金を三年間受けたことによって経常収益が大幅に増額して職員を増員することが可能となりました。また公的助成金についても2020年度から大津市の居場所支援がほぼ毎日開所できる補助金額となり、2022年度から新たに滋賀県からヤングケアラー支援の補助金を受けることでこちらも職員を増員することが可能となりました。寄付金については年度よりの増減が激しく、今後は安定した寄付を受けられる組織になることを目指していきます。



経常費用内訳 5期分

子ども若者への直接支援が活動の主軸となるので、人件費が経常費の六割近くを占めます。2020年度から新たな拠点(ユースホーム)を借りたことで家賃が増えています。事業費や管理費は活動が安定してきたことに伴って必要な費用も安定してきています。雇用体制を充実させるためにも人件費の充実は今後も欠かせません。



財政会計情報のページは
 こちらからご覧いただけます。
 財政会計情報ページを見る

寄付・会員・ボランティア募集

私たちの活動は、みなさまのご支援によって成り立っています。私たちは目の前にいる子どもや若者一人ひとりと関わることを大事にしながら、その声を社会に届けたり、子どもソーシャルワークセンターで取り組んでいるモデル事業を社会に広げる活動に取り組んでいきたいと思っております。私たちと一緒に子どもたちを応援しませんか？

税制優遇が使える応援

京都地域創造基金「事業指定寄附」つながりを意識したヤングケアラー支援事業
 「事業指定寄附」を通して寄付することで、個人では寄付金控除等の税制上の優遇措置の対象となります。また、クレジットカードに対応していますので、いつでも手軽に寄付を行うことができます。



会員になって応援

子どもソーシャルワークセンターの会員になって継続的に子どもたちの支援をすることができます。

- 正会員** 会費年間1万円を支払って法人の運営(総会)に参加します。
- 賛助会員** 個人は年間1口5000円、団体は年間1口1万円を支払って応援します。



支払い方法: ●当団体へ会費を直接持ち込み ●会費を口座振り込み ※口座は下記参照

資金寄付で応援

当団体へ直接お持ちいただくか、以下の口座までお振込をお願いいたします。

郵便局	ゆうちょ銀行	滋賀銀行
記号 14610 番号 23288641 トクヒ) コドモソーシャルワークセンター	支店四六八(468) 普通 2328864 トクヒ) コドモソーシャルワークセンター	本店営業部 普通 590227 トクヒ) コドモソーシャルワークセンター

物品寄付で応援

- 書き損じハガキ
- 商品券(特にQUOカード)
- 食品
- 当団体へ直接持ち込み
- Amazon欲しいものリストによる支援



古本・不用品等を提供して応援

「キモチと。」は、不要になったモノの買取金額で様々な団体等に寄付することができるブックオフの宅配買取サービスを活用した取り組みです。



ボランティアになって応援

ボランティアご希望の方には当団体の説明会を行います。

- 子どもたちと関わったり調理をするボランティア
- 事務局業務をサポートするボランティア

皆さまからのご寄付は、子どもたちの食事や施設維持・イベント費用、調理・サポートスタッフ費用などに使われます。

団体報告 ABOUT US



団体役員(2023年12月現在)

【理事長】	【副理事長】
幸重 忠孝 NPO法人子どもソーシャルワークセンター	関口 速人 滋賀弁護士会 弁護士
【理事】	【監事】
上村 文子 滋賀県教育委員会 スクールソーシャルワーカー	川中 大輔 龍谷大学 社会学部 現代福祉学科 准教授
須磨 航 一般社団法人みんなの居場所 with ふくい 代表	松村 睦子 NPO法人子どもの虐待防止ネットワークしが事務局長
中島 円実 滋賀県地域養護推進協議会 事務局長	
山田 容 龍谷大学 社会学部 現代福祉学科 教授	

助成金・表彰

淡海子ども食堂推進事業(2016-)	日本生活協同組合連合会「子どもの貧困支援活動応援助成」(2021)
赤い羽根協同募金「滋賀の町を良くするしくみ」助成事業(2018・2019)	Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDG's (2022・2023)
子どもの未来応援基金「第4回未来応援ネットワーク事業」(2020)	京都新聞大賞(2022)
休眠預金等活用法に基づく「脱 孤立のための助成金」(2020・2021)	休眠預金等活用法に基づく
全国子ども食堂支援センター・むすびえ	「生きる基盤を失った若者の生活支援事業」(2022)
「むすびえ子ども食堂基金第5回助成」(2020)	第13回地域再生大賞「近畿ブロック賞」(2023)
2020年度 近畿ろうきん NPOアワード「優秀賞」(2021)	
行政との協働	
大津市生活困窮者自立支援法子どもの学習支援事業(2014-2020)	大津市子どもの居場所事業(2021-)
大津市協働提案制度テーマ型提案事業(2018-2020)	滋賀県ヤングケアラー支援体制強化事業(2022-)